

あしがら 農の会

通信 9月号

第125号

2012年 9月4日発行

発行

NPO 法人 あしがら農の会

ホームページ

<http://nounokai.com/>

代表 松本 邦裕 090-1735-3748(携帯)

編集 石井 智子 0465-32-1467(TEL/FAX)

bombalurina@savanna.dti.ne.jp

地場旬自給

あしがら農の会はあしがら地域に様々な循環を作りたいとの思いから、地場、旬、自給を掲げて、1993年に設立されました。(2003年にNPO法人化)
地域の中の休耕田を借りて自給のための米作りから始まった会は、現在以下のような活動を行っています。

農産物の宅配: 会に賛同する野菜の生産者と、地域で自給の為の野菜の作り手が集まって、無農薬・無化学肥料栽培の野菜宅配を行っています。(その他、米、お茶、果実、卵、鶏肉、豚肉などもあります)

田んぼの会: 現在約100家族以上が、あしがら平野の13カ所で自給用の稲を育てています。

お茶の会: 山に戻ってしまうお茶畑を、市民で手入れできないかと始まりました。5月には参加者約100名が、各自1年分のお茶を摘み取ります。

大豆・味噌の会: 大豆は7月に苗作りから始まり、11月に収穫します。その大豆と、各自が田んぼの会で作っているお米で、1月には麴づくりから味噌作りを行っています。

小麦の会: 月1キロの小麦の自給を目指します。

その他、四季折々の行事を行っています。関心のある方はどなたでも参加できます。

有機の仲間たち ~其の九~

「CLCAの活動」

CLCAにおける農業への取り組みについてご紹介させていただきます。「わら一本の革命」の編集者・増田正雄さんがCLCAの理事であったことから、自然農の福岡正信さんの影響を強く受けました。以前には、川口由一さんの田んぼや赤目の田んぼにも何回も足を運び、彼の農作物の栽培では安心・安全が行き届いていることを目の当たりにしました。しかし、その反面、一般的な米づくりでは、いまだに農薬が使われているところがあったのには驚かされました。

その後、小田原市無尽蔵プロジェクトの中で、CLCAがコーディネーターを務める「食のおだわら」への取り組みの一環として、あしがら地域内の有機栽培農家のマップづくりや、安全な食の販売である「まるしえきんじろう」の開催、そして親子学習農園づくりに取り組んでいます。

このようなプロジェクトが緒についたところで、あの原発事故でした。事故直後から、あしがら地域の放射能汚染の実態調査を東大の放射線研究室と共同ですすめ、現在も定点での測定を継続しています。ですが、「安全」と言い切れない限り、食の活動を推進するわけにはいかないということで、CLCAは会としては情報収集に努め、個人レベルではデトックス効果に取り組みながら活動休眠状態が続きまして。この間に着実にすすめることができたのは、親子学習農園づくりでした。土盛りで埋め立てたところを借り、自然農法で土づくりをしようとしたら、最低で3

年、完全に完成するには5年かかると言われました。もう少し短期間で土づくりができないものかと思っていたところ、パーマカルチャー方式でやれば期間を短縮することが可能ということで、みんなでパーマカルチャーを学びながら持続可能な循環型菜園づくりに取り組みました。その結果、ガーデンベット、草屋根、ミミズコンポストが完成し、この9月1日に晴れてオープニングセレモニーを開くことができるまでになりました。ここの正式名は「Yes! Garden」で、9月から毎月一回、小学低学年までの子どもとその親のための「食育菜園教室」が行なわれることになっています。

まだ、循環システムが完成しているわけではありませんが、その過程も学習できる環境として活用していけるのではないかとということで、今回食育菜園教室を開催する運びとなりました。ご案内のチラシは、小田原駅西口駅前のCLCA事務所と、巡礼街道沿いの天然酵母パンとオーガニックカフェの店「ポタジェララ」さんに置いてありますので、興味のある方は、是非手にとってご覧いただければ幸いです。

特定非営利活動法人
子どもと生活文化協会
(CLCA)
理事長 渡邊博之

